

デーリー東北

2025年(令和7年)9月18日(木曜日) (3)



船崎健一学長（左から2人目）に機材を寄贈した
清良平理事長（同3人目）＝17日、八戸市

八工大に鉄筋探査機

日本インフラ協会が寄贈

技術者育成に役立てて

日本インフラキテクチャ検査技術協会（清良平理事長）は17日、八戸工業大（船崎健一学長）に鉄筋探査機1台を寄贈した。コンクリートを破壊することなく、鉄筋位置などを測定できる機材で、インフラのメンテナンスを担う技術者の育成や機器本体の研究に役立てる。

橋の老朽化が全国的な問題となる中、同大では、2023年度に「橋梁メンテナンス体験施設を整備。24年度から本格運用し、学生や地域技術者を対象に講座や研修を行い、維持管理業務に従事する人材の育成に努めている。

同協会は22年に設立。インフラや建築物の高度な検査技術者の育成などに取り組む。

寄贈されたのは電磁誘導方式の鉄筋探査機「アイゼンプロスペクター」。電磁石を用いて磁界を発生させ、コンクリートを破壊することなく、鉄筋位置やコンクリート表面から鉄筋の外側までの最短距離を測定できる。

17日、同大で寄贈式が行われた。清理事長が「橋梁の実物の試験台に使ってもらえるのであれば、技術者にとって非常に良い機会になる」とあいさつ、船崎学長に機材を手渡した。

船崎学長は「建物やイン

フラの老朽化という全国的な課題に大学として挑むきっかけになると期待している。最大限活用させていただき、人材育成や技術の発展に努める」と述べた。

（向屋敷明）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。